

2011 年度 NGO・外務省定期協議会
ODA 政策協議会 NGO 側振り返り

2012 年 6 月 12 日
ODA 政策協議会コーディネーター一同

2011 年度の振り返り

【成果】

- ・年間を通じて、大変よい雰囲気のもとに協議を実施することができた。
- ・短い時間ではあったが、政務三役の出席があり、議論を共有することができた。
- ・「援助効果」「開発効果」に関わる議論を継続しながら深めることができた。
- ・MDGs、ポストMDGs を継続して取り上げ、NGO との連携について議論することができた。
- ・ODA のあり方検討最終報告『開かれた国益の増進』で示された方向性をフォローしながら、戦略的・効果的な援助のあり方、ODA の見える化リスト、開発協力適正会議、過去案件のレビュー、国別援助方針等についての議論を続けることができた。
- ・原発輸出、ビルマへの援助再開など、情勢の変化に応じた課題を議論することができた。

【課題】

- ・外務省からの協議課題の提示が直前に行なわれる事例があった。
- ・NGO 側の関心の高い議題において、外務省側の回答に抽象的な表現が多かった。

2012 年度へ向けて

【継続すべき課題】

- ・ODA のあり方に関する検討最終報告『開かれた国益の増進』で示された方向性をフォローアップするプロセスにおいて、NGO と外務省との常設の協議体として必要な役割を果たす。
- ・ODA 大綱、中期政策の改定のプロセスを開かれたものにするため、NGO と外務省との常設の協議体として必要な役割を果たす。

【今後の改善へ向けて】

- ・NGO 側コーディネーターのイニシアティブにより、一度扱った議題のフォローアップを行ない、必要な場合は適切な論点整理を行ないつつ、継続した議論を行なえるようにする。
- ・副大臣、大臣政務官の出席やサブ・グループの運用など、当協議会に期待される位置づけや役割について、これらを十分に活用するための模索を行なう。
- ・さらに開かれた政策対話の場を実現するために、だれにも分かりやすい運営や議事進行のあり方の検討、地域開催の充実、IT を活用した中継や参加のあり方などを検討する。